



—国指定史跡— **武田氏館跡**
 勘助が考案したとも言われる三日月堀を発見！
 調査機関・写真提供：甲府市教育委員会



武田氏館跡では史跡整備に伴う発掘調査がおこなわれています。三日月堀はこれまで、武田氏最期の居城となった「新府城跡」や、武田氏が新たに領国とした信濃・駿河・遠江の城郭に見られることから、主に侵攻先の拠点となる城郭の出入口を守る施設として造られたと考えられてきましたが、発掘調査を進める中で、武田氏三代にわたる本拠地であった「武田氏館跡」の大手でも初めて同じ施設が造られていたことがわかりました。

▼☆印の門については、新府城のところ...

▲武田氏館跡。今の武田神社の場所にあります。現神社の表門は武田通りに面していますが、当時の表門（大手）は武田通りを東におれて北へ回り込んだ所でした。この大手の前には三日月堀が築かれ、敵がすぐには館内に攻め入れない構造になっていたのです。



▲発見された三日月堀



—県指定史跡— **武田勝頼の墓 (景德院)**
 無念の死を遂げた勝頼らに捧げる鎮魂の経石出土
 調査機関・写真提供：甲州市教育委員会 協力：景德院



▲修理前の様子

▲勝頼らの戒名が記された石

▲墓の台座内の石は経石。すごい数です。

旧大和村田野の景德院にある勝頼の墓は、二度の大火に遭っていることや建立後200年以上が経過していることなどから墓石が傷んでいたので修理が行われることになりましたが、台座の中からたくさんの経石が見つかりました。大名クラスの人物の墓からこのような多くの経石が見つかるのは全国的にも珍しい事です。これは勝頼らが無念の死を遂げてから約200年後に行われた法会(200年遠忌)の際に「宝篋印塔」「五輪塔」という供養塔が建てられ、その時に5,000個以上の経石を納めたものであることがわかりました。字が書かれたたくさんの経石はまるで勝頼らの恨みつらみを封じるかのようです。景德院は江戸時代と明治時代の2度にわたる大火で諸堂が焼失し寺の歴史も詳しくわかっていませんでしたが、この経石によって様々な真相が明らかになるかも知れません。



—国指定史跡— **新府城跡**
 勝頼が自ら火を放った時、焼け落ちた門が現れた！
 調査機関・写真提供：韮崎市教育委員会

新府城跡では史跡整備に伴う発掘調査が行われています。これまでも、乾門の礎石に取り付く土塁が土を盛ってつき固めた土塀のような強固なつくりだったことなどが明らかになっています。

天正9年(1581)9月頃に新府城は一応完成し、武田勝頼は12月24日に入城します。新府城は武田氏のそれまでの館づくりを受け継いだものと思われ、これを裏付けるように、発掘された乾門は武田氏館跡で見つかった門(武田氏館跡写真の☆印)と同タイプの構造で造られていることがわかっています。



▲上空から見た新府城跡



▲乾門の柱が焼け落ちた様子
 四隅に置かれた大きな石は門の礎石です。

天正10年(1582)3月3日、織田信長の軍勢に攻められた勝頼は新府城に自ら火を放ち、岩殿城(大月)へ退却しました。その際に焼け落ちたと思われる乾門の炭となった柱が発掘調査によってその生々しい姿を現わしました。炭となった柱は片隅に片づけられており、鎮火後に何者かが入城した可能性もあります。そのわずか8日後の3月11日に勝頼らは、旧大和村田野で自刃し武田氏は滅びることとなります。

—国指定史跡— **甲斐金山遺跡 湯之奥中山金山**
 武田氏の懐(ふところ)を支えた金山
 調査機関：身延町(旧下部町)教育委員会・写真提供：湯之奥金山博物館



中山金山遺跡は、身延町湯之奥の毛無山山中の標高1,400m~1,660mという高地にあります。中山金山遺跡は戦国時代から江戸時代にかけて操業され、鉱石を掘っていた跡や、採れた鉱石から金をとる作業が行われた場所やそこで働く人々が住んだ‘テラス’とよばれる小さな平坦地がたくさん見られます。発掘調査は金山の実態解明を目的として平成元年から3年計画で行われました。その結果、金山として操業し始めた時期は15世紀後半と推定されていますが、これは武田氏が戦国大名として天下に名を知らしめる以前ということになります。武田氏は金山を経営する人々を「金山衆」と呼び彼らが持つ土木技術を城攻めに利用したと言われています。元龜2年(1571)の駿河深沢城攻めの際に、外郭の破壊に活躍した中山金山の金山衆には「粉子150俵」の褒美が与えられています。



▲鉱石から金をとる‘精錬場’やそこに働く人々が住んだ場所の調査

発掘調査によって‘テラス’からは祖母懐の茶壺の破片や天目茶碗、碁石なども見つかり、茶の湯に親しんだり、余暇には碁基などを楽しんだ「金山衆」のもう一つの顔も明らかに



▲‘鍾押し掘り’と呼ばれる戦国時代の採掘坑の調査の様子

埋蔵文化財センターからのお知らせ

埋蔵文化財センターでは、主に学校を対象とした授業の支援講座や考古資料等の貸出、広く県民の方々を対象としたイベント等を行なっています。

出前支援事業メニュー

- ・火起こし体験
- ・土器づくり（成形～焼成まで）

☆こんな事を行っています☆

体験型学習支援事業	実施校	実施日	内容
	境川小学校	5月9日	火起こし体験・地域の歴史の話
	落合小学校	5月21日	縄文土器施文方法
	大田小学校	5月24日	火起こし体験
	丹波山中学校	5月31日	職場体験
	塩山南小学校	6月1日	火起こし体験・地域の歴史の話
	柳川小学校	6月8日	土器作り（成形）
	綱原中学校	6月13日	出土品に触れる・遺跡の話
	早川南小学校	6月22日	土器作り（成形）
	一宮南小学校	6月22日	土器作り（成形）



▲形ができてきたかな。。

一宮南小学校に土器作りに行ってきました。

これらについて詳しくは、山梨県埋蔵文化財センターHPをご覧ください！！

<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/maizou-bnk/index.html>

先生のための文化財活用支援講座

8月3日（金）・10日（金）開催



受講者募集中！！

貸出しキット

- ・縄文土器から江戸時代の茶碗まで
- ・石器各種 などなど

☆こんなところで使っています☆

教材用資料の貸出先	貸出期間	貸出内容
英和中学校	4月18日～4月20日	貸出キット・DVD
芦安中学校	5月7日～5月11日	貸出キット・火起こしセット・DVD
富竹中学校	5月18日～5月22日	火起こしセット・DVD
北杜市教育委員会	5月25日～5月25日	石器作り道具
甲府第7団カブ隊	6月15日～6月18日	火起こしセット

体験発掘セミナー

- ・発掘調査のドキドキを体験してみませんか？

☆こんなところで開催しています。今後も県内各地で開催する予定です☆

発掘体験	開催場所	開催日	参加者数
●	玉川金山遺跡（都留市）	6月24日	参加者60名

編集後記

青い空のもと田んぼの稲も風にそよぎ、そろそろ夏本番ですね。今号からオールカラーに生まれ変わった「埋文やまなし」をお届けします。

今回は大河ドラマなどで話題となっている、戦国武田氏に関わる県内の発掘調査について市町村の調査成果も含めて「風林火山」特集としてまとめてみました。発掘調査ならではの臨場感あふれる戦国時代を感じて頂けたでしょうか。夏休みに現地を訪れて当時に思いを馳せるのもいいかも知れません。。

表紙イラスト：大塚敦子

山梨県埋蔵文化財センター

埋文やまなし 第27号

発行日 2006年7月17日

編集 山梨県埋蔵文化財センター

発行 〒400-1508

山梨県甲府市下曾根町923

Tel 055-266-3016

印刷 (株) 峡南堂印刷所

山梨県埋蔵文化財センター

埋文やまなし

2007.7.17

<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/maizou-bnk/index.html>

YAMANASHI Pref. ARCHAEOLOGICAL Cultural Properties Center



第27号



特集

発掘調査が語る風林火山

武田信玄が寄進した兜の前立てに類似！

—二本柳遺跡（南アルプス市）—

調査機関：山梨県埋蔵文化財センター 協力：長岳寺



← 兜のこの部分です



▲ 出土した前立ての一部



▲長岳寺に伝わる前立て



▲前立てが見つかった井戸

元龜3年（1572年）、武田信玄は上洛を目指す際に「上杉謙信に背後を突かれず、無事京都に入れるように法華經100部を読経し飯縄大明神に献上するように」という祈願文を福寿院と普門院あてに出しています。また永禄12年（1569年）にも「福寿院の法華經読経によって駿河攻めに成功したから免税しましょう」という許可書をだしています。二本柳遺跡はこのように武田家にゆかりの深かったと考えられる「福寿院」があった場所に当たります。「福寿院」とは南アルプス市加賀美にある真言宗法善寺の子院のひとつでした。発掘調査は平成3～4年にかけて行われていますが、ある井戸の中から兜の前立ての一部が見つかりました。この井戸は深さ80cm位の浅いものですが、周りには4～5段の石が積んであり、中から漆塗りの木椀や素焼きの皿などとともにこの前立てが見つかったのです。この前立ては表面に細かい文様が毛彫りされており、金メッキされていた痕跡もみられます。これは信玄が寄贈したと伝えられる長野県の長岳寺（下伊那郡阿智村）に残されている兜の前立てにデザインがとてもよく似ていますが、これは「三鈷」とよばれる密教仏具の一種をモチーフにしたものです。この密教仏具には「無知なるものをすべて仏の知恵に変質させる」力があり、それ自体が不滅であるとされています。このような力のある「三鈷」を兜の額に掲げて戦に望んだ戦国武士の気概が偲ばれます。この二本柳遺跡出土の前立ては県立考古博物館で見ることができます。また遺跡は南アルプス市十日市場二本柳に所在し、現在は中部横断自動車道が通っています。

大永元年（1521）
太郎、誕生（武田信玄）

天文5年（1536）
太郎、元服し晴信へ

天文10年（1541）
信虎追放

天文22年（1553）
この年から川中島の合戦

永禄2年（1559）
晴信、得度し信玄へ

永禄7年（1564）
ここまで川中島の合戦

天正元年（1573）
信玄没

天正9年（1581）
勝頼、新府城へ

天正10年（1582）
勝頼自刃で武田氏滅亡